

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームうらら花	評価実施年月日	平成19年12月15日
評価実施構成員氏名	堀井・茂木・千葉・徳山・加藤・石澤・植田・太田・宮田		
記録者氏名	堀井	記録年月日	平成19年12月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者本位の支援、地域社会で自立した生活を送れるように、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念に基づくケアプランを作成し、利用者が安心して暮らせるよう援助している。常に意識出来るように、生活記録に貼って実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>広報活動、見学者の受け入れ等によりグループホームうらら花の理念を伝えている。来客の際等玄関に掲示している理念が見える様にしている。また、地域の行事に参加する等の交流を通じ理解を得ている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>自治会の行事等に、積極的に参加している。外出時は挨拶を欠かさない。また、利用者も気兼ねなく会話に入れるように配慮している。近所で家庭菜園を作られてる方が多く、採れた野菜などを戴くことが多い。</p>	<p>地域の方が気軽に立ち寄る機会が少ないので雰囲気作をしてゆきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内、地域、自治会の行事やイベントに積極的に参加し、地元の方たちと交流を行っており、生活が楽しめるように努めている。(夏祭り・小学校との交流・花見・敬老会など)</p>	<p>今後も地域のいろんな行事等に参加していきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域で要介護状態を抱えている家族の相談・助言を行っている。地域自治会との交流を行い災害時の地域で暮らす高齢者の対応等話し合いの機会がある。</p>	<p>相談件数としては少ないので地域の人と話し合える機会を設けてゆきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>ひらかれた事業所であるために、外部評価で指摘された点を中心に、改善に取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>定期的に会議を開き、意見・注意点など、指摘された点は職員に報告し改善に向けて取り組んでいる。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>介護支援専門員の会議や、町独自のネットワーク会議への参加を行っている。相談がある時は互いに行き来しサービス向上へ役立てている。</p> <p>町との連携を行っているが限られた職員であるため工夫が必要。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>研修や研究会等に参加し、内容を職員間で話し合い、利用者に支援している。</p> <p>多くの制度があるので理解して活用していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>法については、学ぶ機会が少ないが、事業所全体で虐待防止に取り組んでいる。高齢者虐待に関連すると思われる対応法については、管理者に指示をもらったり、職員間で解決方法を考えている。</p> <p>法についての勉強会や、虐待についての研修に参加してゆきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入所時の事前調査、及び、家族と面接し入退居のリスク説明を行い納得を得ている。</p> <p>入所後は、日々の状況を知らせている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が不安・不満・意見などを言えるような関係作りに努めている。また、その方らしい生活スタイルを考えながら、話し合い改善に向け取り組んでいる。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	管理者が不在の場合でも、すべての職員が利用者の状態・普段の様子などを報告出来るように、記録や写真などに残し、来訪時やお便りで家族に報告している。職員の異動等に関しては、事業所で発行している広報誌に掲載し送付している。		利用者受診時や家族との会話で専門的な事を聞かれ返答に迷う事があるので色々な知識を深めていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の委員の構成が家族1名入る事となっており、家族から見た視点での意見をいただけ、意見等は回覧資料に掲載しつつも外部者へ掲示できる状態にある。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	理事長との面談を行っている。(年一回) 職員会議(月一回、他、必要に応じて)や、毎日の申し送りで伝えている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者や勤務の職員で調整を行っているが突発事等人員を確保出来ない事や、町外の通院等については家族の要望に応じられない事もある。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が変わる事になっても利用者の生活スタイル変えずに援助を行えるよう利用者個人にあった対応や配慮が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所内で研修会を開いて職員のスキルアップに繋げている。必要に応じて外部研修・講演会などに参加している。</p>	<p>事業所内で、資格取得の為に勉強会を開いている。できるだけ多くの研修に参加し、利用者の支援に繋がるようにしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣5町村との年に数回研修会や近隣の職員との交流会を設けている。</p>	<p>近隣のグループホームとの交流をしている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年1回、忘年会や慰安旅行を行っている。職員相互の交流などを行っている。</p>	<p>これからも忘年会や慰安旅行を行って行きたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得を希望している職員の為に勉強会を開いてる。</p>	<p>給与の改善など向上心をもって働けるように努めている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>1日の生活の中で、コミュニケーションの時間を多くもち、信頼関係を築く努力をしている。利用者の悩み・不安は、じっくりと傾聴し、必要に応じて個別に対応している。</p>	<p>積極的に利用者と交流を行い、本人の気持ちになって不安を解消しているよう努力している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>来訪時は、家族の声を聴くため、出来る限り声を掛けるように努めている。不安・悩みの声が聴かれた時は、早い時期に取り除けるように、職員全体で取り組み、対応している。</p>	<p>事前面談、施設見学受け入れ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容に応じ近隣の介護サービス事業所の種類や内容、状況を伝える事が出来る。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	通所事業所との交流があり利用者同士の馴染みの関係が入居以前からあるケースがある。また、家族も参加出来る行事を企画、実行し雰囲気を感じていただく事ができグループホームでの家族の宿泊も受け入れているので入居間もない方でも不安の軽減が計れる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の大先輩なので、昔の話を聞く事で学ぶことが多くあり、家事や行事等を一緒に行う事で喜怒哀楽や達成感を共有出来る。利用者の希望にそった生活が出来るように支援をしている。利用者の一言でホーム内の雰囲気が明るくなり利用者を支えられている事が多くある。		利用者との会話や日常作業などを通して、関係がもっと良くなるように努力する。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が参加出来る行事を企画したり、家族が宿泊できる体制や不穩時の一時帰宅の協力作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	お便りや来訪時などに、普段の様子などを伝えている。外泊やホームへの宿泊の機会を作っている。家族と離れて暮らすことによって、より良い人間関係を築けるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		出身地が遠い方への支援が難しいので考えて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士、または職員との会話で、喜びや楽しみなどを共有できるような声掛けや雰囲気作りに努めている。 利用者同士の関係が円滑にいくようさりげなく利用者同士の共同作業を作ったり、状況に応じて職員が間に入り対応している。		利用者間で食事やテレビを見るのを誘ったり、体調が悪い人がいるときへの思いやりの気持ちを大事に行きたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	面会に行くなど継続的に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を把握し出来ない事については、話し合いをして対応している。過去の生活状態を知り、その事をふまえて何を望んでいるのか日常生活や会話の中で見つけ把握していくように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者理解を深める上で、日常生活の理解は欠かせなく、今までの習慣・趣味・人との関わりなどの把握に努めている。また、生活歴と極端に違う対応にならないように、個人ファイルを作り、いつでも見れるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その人がもつ生活文化や個人史があり、そのことを十分に理解しながら、毎日の生活記録で心身状態を把握し、支援に努めている。		その日の状態に合った作業などをこれからも継続してゆきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランは職員の情報、意見を取り入れ作成している。職員の中で担当者を決めており、月一回会議を開き、職員会議で話し合いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプラン後に起こった状況については、速やかに家族に知らせ、再度計画を見直している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	全ての職員が、一人ひとりの生活記録を詳細に記入して情報を共有し、共通した援助目標を協力し合ってサービス提供に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内にデイホームがあり要望時に利用者遊びに行く事ができる。一時帰宅支援、家族の宿泊、通院援助、買い物援助等本人や家族の希望に応じた支援をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地元の小学校との交流や、消防署との避難訓練を定期的に行っている。行事や災害時等周辺地域から協力を得ることが出来るよう、働きかけをしている。徘徊等により捜索者が出た時には円滑に捜索出来るように警察、地域包括支援センターと協力体制がある。		地域資源を活用し現在のネットワーク作りの強化を深めて行きたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望により同法人内の通所施設に遊びに行っている利用者はいるが、他のサービス利用支援はしていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在まで事例が無い。		権利擁護のケースがあれば地域包括支援センターや権利擁護団体と協働して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的、または急変時には、かかりつけの医療機関に受診しているが、常に連絡が取れる状態ではない。 薬の事について、事業所の近くにいる看護師に相談をする。		平成20年1月から、看護職員が配置になり、健康面での相談が出来るので、病気の早期発見に繋がるのではないかと思う。 定期的な歯科検診も、取り入れたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	月に2回専門医の外来受診が可能で相談や助言・投薬の指示が受けられる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師は配置していないが、法人の看護師がいるので相談は出来るが充実しているとは言えない。		平成20年1月から、看護職員が配置になり様々な相談が出来る。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時は医療機関・家族と情報交換を行い利用者がスムーズに退院できるようにしている。入院した時は他の利用者職員で面会に行ったり利用者不安の緩和を図っている。		平成20年1月から、看護職員が配置になり、入退院での相談が出来るのでより円滑な状況に取り組んでいきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期までの事例は無いが看取りの指針は出来ている。重度化した場合家族と共に医師に今後の治療やリスク等を聞き早い段階で方針を定めて共有している。		グループホームにおいて看取りが出来れば良いと思うが困難ケースも考えられ慎重に取り組んでいきたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在まで事例は無いが、終末期をグループホームで迎える事は困難であり事業所の「できること・できないこと」を見極めて、看取りの指針を定めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めているが本人のダメージがどこまで防いでいるか把握出来ていない。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人格を尊重し、利用者の主体性を損なわないように、プライバシーや個人情報の秘密厳守に努めている、記録類は書棚やファイルに閉じ取り扱いには十分注意している。</p>		<p>これからも尊厳を傷つけるような言葉をかけないように、言葉を選びながらコミュニケーションをはかれるように努める。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るかぎり、本人の気持ちを確認し判断してもらうように支援している。無理な場合は、納得していただけるように説明している。</p>		<p>外食や行事等、利用者があまり納得しないで出掛けるケースもあり今後の対応を考えていきたい。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペース大切に、出来る限り本人の希望に添えるよう、支援している。希望がない場合なども、コミュニケーションなどを利用し、引きだせるよう努めている。個人のペースに合わせた支援に努めている。</p>		<p>これからも本人が、日常生活でより良く過ごせるように常に耳を傾け、支援をしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容は、本人の希望時に馴染みの店に行く、希望がなくても髪が伸びてるときは本人と話し理容院へ行ったり、職員で髪を切ったりもしている。外出時の服装等は、本人に任せていますが場合によって、さりげなくアドバイスもしている。入浴後の着替えなど職員が揃える事がある。</p>		<p>入浴時等、職員が揃えた服が多く、本人の意向確認が不足している事もあり今後検討していきたい。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その人の出来る力に合わせ、一緒に準備や片付けを行っていますが、食事の献立が決まっているので、一緒に考えながらとか、好みを聞いて作る事があまりない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ等は事業所から提供しているが、他に本人が買ってきたお菓子や飲み物は個人管理とし楽しめるようにしている。お酒が好きな利用者にも、晩酌として提供している。		現在喫煙者はいないが、利用者の健康被害・火災の危険性も考慮して全館禁煙にしており、これからも継続して行きたい。喫煙者がいる想定をしていないので検討して行きたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を作り、心身の状態や尿・便の観察、個々の排泄パターンを把握しさりげない誘導を行い、失敗を少なくして自立できるような支援をしている。		リハビリパンツやパットを使い分けて、機能低下しないように支援していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	健康状態を確認し利用者本人の了解を得て入浴している。日中と夜間にいつでも入浴ができるようにしているが、実際は曜日や時間帯を決めてしまっている事が多い。		ゆっくり、くつろいで入浴していただきたいが入浴者が多くなったり入浴期間の間隔が長い方の支援で時間を費やしたり時間帯や職員の配置上難しい事もあり希望時に入浴できる状態を作っていくように努めたい。入浴間隔が空いていても利用者その日の気分で入浴したくない時の勤め方に十分配慮してゆきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は、疲労の程度に応じて休息を促している。夜間安眠できる様に日中の活動を行い生活リズムを整えるようにしたり個々の睡眠リズムを把握し支援している。		ゆっくりと休息出来るように、日常生活全般に配慮をしていく。生活習慣を把握して対応していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	炊事や掃除等個人の力に合わせた役割を作り提供している。行事を企画し利用者が昔していた趣味が出来るように支援している。		日常生活の中で、一人ひとりの特色を活かした役割をお願いしているが、なかなか全員には役割分担が出来ないので、みんなで楽しめる事も考えていかなければならない。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の希望や能力に応じ自由に使えるように支援している。管理が出来ない方には事業所で管理しているが買い物時等はお金を本人に渡し使ってもらうように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>天気の良い日は散歩へ、本人の希望時には買い物へ行っている。また、可能な限り、近隣住民との交流、地域社会とのふれあいを楽しめるように支援している。</p>		<p>付きそう職員が居なくて外出できない時間があるのでなるべく時間調整をして支援して行きたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>年に数回、紅葉狩りや地域小学校との交流会など、家族参加もできる計画を立てて実行している。また、自治会や地域行事にも、積極的に参加している。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>本人希望時は手紙や電話のやり取りは自由に行うようにしている、電話のかけられない場合は職員援助している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族が気軽に訪問出来る環境と、ゆっくり過ごすことが出来る雰囲気作りに努めている。家族の宿泊も柔軟に対応している。</p>		<p>限られた方の友人・知人しか来られることがないので今後の課題でもあと思う。</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を行った事は現在までない。必要時身体拘束しなければならない事態になった場合は管理者の指示を仰ぎマニュアルの手順で行うようになっている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中、玄関は施錠していない、居室も鍵が付いていないので、気軽に出入りができる。生活空間が制限されないように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、玄関を施錠していないので目視、センサーにて利用者の動きを把握している。夜間は定時やその時間以外にも巡視を行い安全確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	カミソリ、包丁は危険防止のため職員で預っているがいつでも貸し出しをしたり代わりに対応している。本人の状態に応じ情報を職員間で話し合い個々の能力に応じ利用者に必要なものは持っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止について会議等で話し合いや勉強会を行い事故防止に努めている。誤薬を防ぐチェック体制、行方不明時のマニュアル作成、消火訓練、コンセント付近のチェックを定期的に行っている。		福祉用具をなどの器具をもちいて事故防止に検討をして行く。誤飲、誤薬防止の為確認をおろそかにしないよう気をつけている
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事業所の職員全員が、2年に1回、救命救急講習を受講している。年1回、消防署と避難訓練を行っている。会議などで、急変時の勉強会を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回、消防署と防火・避難訓練を行っている。自治会災害マップが作成され避難所が指定されている。自治会の避難訓練に参加し協力体制がある。		避難時に必要な物品を揃えている。地域の人々にも、協力を呼びかけている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族に利用者本人の考えられるリスク等について対応策を話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックで、心身の状態を観察し、異変が見られた時は速やかに医療関係へ通院し対応している。また、記録に細かく記載し、申し送りで情報を共有して対応している。		バイタルチェックだけではなく動作や言動も日頃から観察している。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報や診療記録を、個人別にファイルしているため、目的や副作用、用法・用量の確認が常に出来ている。状態の変化にも対応できるように観察に努めている。		これからも一人ひとりの薬について理解を深めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防の為、十分な水分・食事量・食品など、便通を促す作用のある献立に気を配っている。 体操や散歩を毎日行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	義歯の洗浄は必ず1日1回ブラッシングし就寝前に洗浄液で消毒。毎食後の口腔ケアへの支援を行っているが利用者全員ではないため不十分である。		口腔の衛生を保つことは、健康上にも重要であり、毎食後での声掛け、支援に努めたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の献立、量やバランスは管理栄養士が対応している。食事の摂取量は生活記録に記載し1日の摂取量を確認、変化が見られるときには状態に応じて対応している。水分量は、1日の目標量と時間を決めて、意識的に水分を摂る習慣をつけるようにしている。毎日昼食前に口腔体操を実施し嚥下機能の維持に努めている。		食事・水分摂取量が少ない利用者があるので状態に応じた工夫を続けて行きたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	湿度、温度の管理、利用者・職員への予防接種、食器・床・トイレや、普段、手が多く触れる所への消毒、外出時の手洗いうがい等の実施している。また、来所される方への手洗い消毒の協力を、お願いしている。ノロウイルス感染マニュアルを作成し緊急時に対応出来る様にしている。		居室の消毒は行える日が少ないので定期的にできるように日程などを決めて行えるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、管理栄養士が発注・在庫管理している。その日に届いた食材はなるべく、その日に使い切るようにしている。調理器具等は、2日に1度、消毒を行っている。他の台所用品も、ほぼ毎日、消毒を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先に、花を植えたりして、家庭的な雰囲気作りに努めている。車椅子でも、出入りが出来るように、階段の幅を広げているが既存の住宅を改修しているため不便な箇所もある。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>既存の住宅なので、共用の場は狭く感じるが、写真や利用者の作品を飾ったり、季節ごとの行事にあった飾りつけをし、季節感も感じられるように工夫している。</p>		<p>狭い空間を活かし少しでも快適に過ごせるように努めている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアー2カ所にソファを置き、テレビを観たり、利用者同士で談笑したりして過ごす事が出来るが、共有空間の中に一人になれるような空間づくりは出来ていない。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>見慣れた物品、使い慣れた家具や仏壇など自由に持ち込めるようにしており本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室、フロアーと温度・湿度計を設置し、時間を決めて確認している。夜間も、巡回の時などに確認している。外気温との差が出ないように状況に応じて配慮している。居室の温度を見て換気を随時行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>必要な箇所へ手すりを設置しており車椅子や歩行器などでも身体機能を活かした移動が可能。フローリングなので起立時の転倒防止のためマットを敷くなど自由に移動や操作が出来る環境作りに努めている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の前に名札を用意したり、トイレや食事の席、ソファの座る位置をなるべく固定し誘導し混乱を防ぎ自立を促している。誤認や錯覚を引き起こした時はそれぞれの利用者の状態に合わせた言葉掛けや対応をしている。ニーズに応じて、部分的な改造などの対応をしている。</p>	<p>言葉にはしないが不安を抱えている方もいると思うので不安の軽減を図って行きたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>芝生と畑があり、夏は畑に野菜や花を植え、芝生にテーブルと椅子を設置して日光浴も出来てバーベキューなども楽しめる雰囲気になっている。</p>	<p>いつでも畑仕事が出来るように工夫していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 住宅改修型のグループホームであり個々の部屋の作りや入り口が違うため自分の部屋、他人の部屋と区別が付きやすく混乱予防効果がある。 地域との関わりが強く地域の一員として認知されている。 利用者が孤立したり、社会性を失わないように、個別的に、あるいはグループで、生き生きとした生活が出来る。